

製品名: GRM5 (6R13) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe11784**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,FC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:200-1:500,FC 1:10-1:100
分子量	132kDa

抗原情報

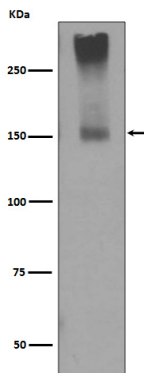
遺伝子名	GRM5
別名	GPRC1E; GRM5; Metabotropic glutamate receptor 5 precursor; MGLUR5; MGR5;
遺伝子 ID	2915.0
SwissProt ID	P41594
免疫原	ヒト代謝型グルタミン酸受容体 5 の合成ペプチド

背景

グルタミン酸に対する G タンパク質共役受容体。リガンド結合により構造変化が起こり、Guanine nucleotide binding protein (G タンパク質) を介したシグナル伝達が誘導され、下流のエフェクターの活性が調節される。シグナル伝達はホスファチジルイノシトール-カルシウムセカンドメッセンジャー系を活性化し、カルシウム活性化塩素電流を生成する。シナプス可塑性の調節と神経回路網活動の調節に重要な役割を果たしている。グルタミン酸に対する G タンパク質共役受容体。リガンド結合により構造変化が起こり、Guanine nucleotide binding protein (G タンパク質) を介したシグナル伝達が誘導され、下流のエフェクターの活性が調節される。シグナル伝達はホスファチジルイノシトール-カルシウムセカンドメッセンジャー系を活性化し、カルシウム活性化塩素電流を生成する。シナプス可塑性の調節と神経回路網活動の調節に重要な役割を果たしている。

研究分野

画像データ



マウス脳溶解物中の GRM5 発現のウェスタンブロット分析。